

この植物は太平洋諸島に多し。我南洋群島に甚だ多し。臺灣も高雄州下には殆ど林木の狀をなし栽培せらる。高雄市内にも庭園樹の如く各所にあり。恐くはその大木とされるより是れを見るに相當古き時代より栽植せらるゝならん。領臺の前後孰れるや不肖是れを知らず。

臺灣にてはその核仁を多く食用となさざるが如く不肖未だ之を食はざるも南洋群島にては不肖常に是れを食せり。その味は巴旦杏アルモンドに類せり。又インドアルモンドと稱す。サー・ジョルヂ・ワットの記する所によれば(印度物産誌一〇七三頁)、アングマン群島(3)には海岸の森林中の大なる落葉木にしてインド、ビルマの海岸地方には栽培せらる。仁は五〇ペルセントの油を有しアルモンドに類する油を有す。オクシユ(印度果實一五一頁)は、二〇—三〇メートルの喬木(きょうぼく)にして海岸低地に多しと云ふ。358

金平氏の南洋群島植物誌(二六四頁)によるに、シマボウの和名を用ひ海岸林に生育する大喬木なり。本邦にては琉球、小笠原島、臺灣等に産す。徑一〇〇センチメートルに至る。核果は橢圓形扁平龍首狀の凸起あり。長さ六センチメートル内外、果皮は纖維質、内果皮は骨質、仁は油分に富む。種子の仁は味佳にして食するに足る。之を搾りて油を得。パラオ群島の島民はこの種子を嗜好すと云へり。その記する所大體同じ。海岸植物たり。木材としても堅牢にして良材なり。庭園樹としても最良ならざるも又賞するに足る。唯疎枝疎葉にして蒼鬱(さういつ)の感なし。

葉は大にして落葉するに先ち紅葉す。熱帯林木の紅葉は此の樹を以て最とす。臺灣にては一月より二月に紅葉す。將來の栽培に必要な樹種なり。特に核果の外用材として大に用あり。

其他

其他の核果も少なからず。蓮實、芡實(10)の如きも明かに核果に列すべし。強て之を云はゞ亞熱帯、温帯の物は皆雲南の如き熱帯高地に適せざるものなし。今一々是れを列挙するは徒らに紙數を増すに止まり必要却て少なきにより之を省略す。

上の漿果と共に植物の適應性を以てせば熱帯に栽培せざるもの一として之なし。苹果の如きも二〇〇〇メートル以上は不可能に非ずと知るべし。

別表にオクシユによりその樹名を記し是れを付す。

【附表】 其五 熱帯果樹分類表

(「印度の果實」による)

Amaryllidaceae.

S. pinnata.

Cureuligo latifolia.

C. capitulata.

Anacardiaceae.

Annonaceae.

Anacardium occidentale.

Annona muricata.

Bouea macrophylla.

A. reticulata.

Dracontomelum mangiferum.

A. squamosa.

Mangifera caesia.

Stelechocarpus Burrahol.

M. foetida.

Apoecynaceae.

M. indica.

Carissa Carandas.

M. odorata.

Bombaceae.

Spondias dulcis.

Durio kutejensis.

S. lutea.

D. zibethinus.

Bromeliaceae.

Ananas comosus.

Burseraceae.

Canarium commune.

C. moluccanum.

Cariaceae.

Carica Papaya.

Combretaceae.

Terminalia Catappa.

Cucurbitaceae.

Bennincasa hispida.

Citrullus vulgaris.

Cucumis Melo.

C. sativus.

Cucurbita moschata.

Ebenaceae.

Diospyros discolor.

D. kaki.

Elaeagnaceae.

Elaeagnus latifolia.

Euphorbiaceae.

Antidesma Bunius.

Baccaurea dulcis.

B. Motleyana.

B. racemosa.

Phyllanthus acidus.

P. Emblica.

Fagaceae.

Castanea argentea.

Flacourtiaceae.

Flacourtia indica.

F. inermis.

F. Jangomas.

F. Rukam.

Gnetaceae.

Gnetum Gnemon.

Guttiferae.

Garcinia celebica.

G. dioica.

G. dulcis.

G. lateriflora.

G. Mangostana.

Mammea americana.

Hydrocaryaceae.

Trapa bicornis.

T. quadrispinosa.

Labiatae.

Ocimum Basilicum.

O. Sanctum.

Lauraceae.

Litsea Sebifera.

Persea americana.

Leguminosae.

Cynometra cauliflora.

Dialium indum.
Inocarpus edulis.
Pithecolobium dulce.
Tamarindus indica.

Malvaceae.

Hibiscus Sabdariffa.

Meliaceae.

Lansium domesticum.
Sandoricum indicum.
S. Koetjape.

Moraceae.

Artocarpus Champeden.
A. communis.
A. integra.

A. rigida.

Ficus Carica.

F. glomerata.

F. variegata.

Morus alba.

M. nigra.

Musaceae.

Musa brechycarpa.
M. chiloearpa.
M. chinensis.
M. paradisiaca.
M. zébrina.

Myristicaceae.

Myristica fragrans.

Myrtaceae.

Eugenia aqua.
E. Cunini.
E. densiflora.
E. Jambos.
E. javanica.
E. malaccensis.
E. polycephala.
E. uniflora.
Psidium Cujavillus.
P. Guajava.
Rhodomyrtus tomentosa.

Nymphaeaceae.

Nelumbium Nelumbo.

Oxalidaceae.

Averrhoa Bilimbi.
A. Carambola.

Palmae.

Arnga pinnata.
Borassus flabellifer.
Nipa fruticans.
Salacca edulis.

Passifloraceae.

Passiflora edulis.
P. foetida.
P. laurifolia.
P. quadrangularis.

Punicaceae.

Punica Granatum.

Rutaceae.

Aegle Marmelos.

Rosaceae.

Eriobotrya japonica.

Citrus amblycarpa.

Fragaria indica.

C. aurantifolia.

F. vesca.

C. Aurantium.

Prunus Persica.

C. Hystrix.

P. triflora.

C. maxima.

Rubus fraxinifolius.

C. medica.

R. moluccanus.

C. nobilis.

R. rosifolius.

Feronia Limonia.

F. lucida.

Rubiaceae.

Triphasia trifolia.

Morinda citrifolia.

Sapindaceae.

Erioglossum rubiginosum.

Euphoria Longana.

Solanum Lycopersicum.

Litchi chinensis.

S. quitoense.

Nephelium lappaceum.

S. spec.

N. mutabile.

Vitaceae.

Otophora alata.

Vitis vinifera.

O. fruticosa.

Zingiberaceae.

Xerospermum Noronhianum.

Amonum aculeatum.

Sapotaceae.

A. Cardamomum.

Achras Zapota.

A. maximum.

Chrysophyllum Cainito.

Hornstedtia alliacea.

Manilkara Kauki.

H. minor.

Solanaceae.

H. mollis.

Cyphomandra betacea.

H. paludosa.

Physalis minima.

H. pininga.

P. peruviana.

H. villosa.

五 飲料

飲料の第一は茶なり。是れに次ぐを珈琲、カカオ等とす。今之を記すべし。

1 *Camellia thina*, (*Thea sinensis*.) [茶]

茶は支那の特産なり。學名は *Camellia thea* なり。然れどもその變種等につきては幾多の種類を生ぜり。拙著臺灣島之現在 (二七〇—二八〇頁) に詳述せり。今再記するを不必要とす。就て見るべし。興亞計畫の産業としても茶は實に最重要産物の一なり。深く考へざるべからず。

種類

大別すれば緑茶と紅茶なれどもその中間に烏龍茶ウーロンあり、包種茶パオチンあり、皆之を必要とす。舊日本は緑茶のみなり。臺灣は紅茶と烏龍、包種の三様あり。支那は緑、紅、烏龍、包種を皆備せり。この外別に雲南普洱茶の如き紅茶の特種なるものあり。

支那茶の改良

將來の興亞計畫として之を考ふるに支那茶は大に改良せざるべからず。改良とはその製法を改良するに非ず。製法以外の諸點に大改良をなすべきを云ふ。製法は極めて良好なり。殆ど改良すべき餘地なし。その香味は實に本邦産の上に出づ。

本邦人は日本緑茶に慣るゝを以て支那緑茶を好まざれども、是れは嗜好の問題にして又世界の人士にして支那緑茶を好み日本の緑茶を好まざるものあるべし。現にカサブランカ(モロッコ)の如きに至りては、アラビア人は日本緑茶を排斥し支那緑茶ならざるべからずと云ひ、蒙古人も日本紅茶を以て製せる磚茶を嫌ひ、支那紅茶より成れる磚茶を好み。如此きは嗜好にして理論に非ず。不肖の如く日支の外印、ジャバ等の茶を常に飲用せるものは各其の特徴に従ひ是を好み。決して一にして可なるべく二三にして不可なりと云はず。然れば將來支那産業の指導に當る人は特に此の點に留意せざるべからず。自を以て他を圖るは不當なり。

味

之を概言せば日本緑茶は甘中苦味あり、特に玉露ぎよろの如きは然り。支那緑茶は苦中甘あり。龍井の良茶は此の例に屬す。紅茶は日本産臺灣を除くは一般に不良なり。安徽あんきの祁門きもんを良とす。印度ダーリン、ジャバの最良種(マラバル)一帶の産是に次ぐ。臺灣紅茶は又是に次ぐ。烏龍ウロンは福建安溪の鐵觀音てつくわんのん最良にして臺灣木柵の鐵觀音之に次ぐ。臺中竹山鹿谷も之に次げり。包種は殆ど烏龍とその味を別たず。

品種の撰別

最も改良をなすべき點は品種の撰別なり。從來茶は子實はしゆの播種はくしゆによりてのみ繁殖せり。故に千中一二の優良種あるも概ね惡變するは普通なり。最近奈良茶業試験所は挿木による無精繁殖に成功せり。之の法を以てすれば品種を低下せず。然れども茶樹の生命は或は實

生より短命なるやも知れず。茶樹は三百年を経るも猶繁茂す。その例鹿兒島縣贈嶽郡に於て是を見る。實際上より云はゞ五、六十年を適期とす。是を過ぐれば老衰するは必然なり。宜しく更新を行ふべし。

施肥

次に茶樹の施肥に改良を行はざるべからず。茶は葉を摘む故に窒素肥料を加へざるべからず。不肖は是れを経験せしに施肥區と無施肥區とその製茶の香味に甚しき差あり。無施肥區は著しく香味佳良なり。

蓋し窒素過多の時は香料は一般に劣等となれるを原則とす。加里は之に反す。然れども玉露の如き味を尙び香を従とする時は窒素を十分に與へざるべからず。最近硫安肥料を多くするにより葉の摘採

量は増加するも品質は香氣の低下を免れず。不肖の施肥は茶種粕を用ひたるも猶然り。況や他の過窒素肥料をや。

茶葉の成分は臺灣農家便覽(九八九頁)によるに窒素三・五六、磷酸〇・七二、加里一・六四、灰分四・七六なり。茶種粕は窒素四・五二、磷酸二・〇六、加里一・三〇(臺灣農家便覽二八二六頁)此れを對照せば明かに窒素の供給量加里に比し大なるを知るべし。然れども實際植物根の吸収するは決してこの數字の如く正確なるものに非ず。故に是の表により施肥の適否を立つるは早計なりと雖も概略は摘葉と共に土中の成分を奪ひ去るは事實なるを以て是に近く施肥せざるべからず。

茲に重大なる要素は灰分なり。臺灣農家便覽は灰分の性質を明かにせざるを以てその何なるや明かならざれども他の植物樹葉の如く珪酸礬土、苦土等の類なるや明かなり。その成分は著しく香に關聯す。

十萬分の一だも必要あらば影響す。香氣は實に敏感なり。窒素、磷酸、加里の如き遲鈍なるものに非ず。故に十分にこの灰分を研究し是れが對策を講ぜざるべからず。

土 壤

次に土壤の成分なり。一般に相同じきが如くして實は然らず。土壤も茶樹根は深く三メートルに達するを以て表土の分析を以てのみ考ふべからず。心土も深く穿ち之を研究しその施肥量と質を定めざるべからず。茶樹は地方により同一の品種を以てするも大なる相異あり。所謂銘茶の稱の起るは此理なり。決して氣候の如き外界要素のみを以て論ずべからず。微量の礦物性の存在は重要なる因をなせるものと知らざるべからず。我邦京都宇治の如き、支那杭州龍井の如

き、福建省安溪あんけいの如き皆必ずその因て來る所なからざるべからず。歐米人は茶に牛乳と砂糖を混ざるを以てその味は濃厚ならざるべからず。味の濃厚を欲せば茶葉を多くし湯を減ぜば殆どその目的を達すべしと雖も、香は是の方法により増加すべからず。故に茶葉に香氣あらしめざるべからず。

香 氣

茶の香氣は茶自體の香氣の外製茶の醱酵はうかうに際し生ずる香氣あり。この香氣は綠茶に於て望むべからず。無醱酵なるが故に決して生ぜず。紅茶に望むべからず。完醱酵なるが故に消失す。即ち醱酵の途上に生ずる芳香なり。

臺北帝國大學の山本亮教授はこの香氣をゲラニオールなりと云へ

り。烏龍包種の良品は此の香氣を有せり。半醱酵なるを以てなり。不肖の門下廣瀬了乘は此のゲラニオール香氣を消散せざらん爲苦心して漸く成功せり。

昭和十三年臺灣平鎮試験所に於て研究せしに極めて瞬間に生じ、少しくその度を過ぎば消滅す。この技術は深き學理によらず、臺灣人福建人は永年の慣行により醱酵時機を見是れを消散せしめず茶葉に固定せり。鐵觀音の良品の美味は是れによる。臺灣木柵、鹿谷皆是れを有せり。ゲラニオールの香氣は薔薇の有する香氣あり。木柵の茶の如きは人をして薔薇花を混入せしに非ざるかを疑はしむるに至れり。如此きは全く永年の慣行技術にして本邦人の如き綠茶以外を知らざる者の能く指導し得る範圍に非ず。寧ろ本邦人は臺灣人、支那人につき在來の慣行方法を學ばざるべからず。

不肖は京都桃山の自園の茶を以て是の香氣を出さしめんとし再三是れを試みたるも、微かに之を嗅ぐを得る程度に止まり臺灣の如く芳烈ならず。蓋し宇治種にてはやゝ困難なるが如し。或は品種にも關聯するならんと信ず。

品種と施肥との改良をなさば、次は製法以外の各種の工作なり。無用の失費を去り及ぶ限り低廉に良品を供給するを上策とす。此事は敢て茶業のみに限らざるなり。萬品皆然らざるなし。本邦人の茶業技術者にして支那茶業を指導せんと欲するに於ては、先づ支那人に學びつゝ而して改良を圖らざるべからず。

輸出紅茶の改良

アッサム種は歐米人の茶の嗜好に適せり。支那種を以てするも尙

及ばざるが如し。この茶葉は特殊の香氣あり(ゲラニオールに非ず、茶固有の香氣なり)苦味強し。之に乳を加ふるもその香味を減ぜず。故に漸次支那茶を驅逐せるは當然なり。故に歐米輸出を計らばアッサム種によらざるべからず。この茶はアッサムの自生の改良なり。恐くは雲南には是れに類する茶樹あるべしと信ず。是れが適地は臺灣の外嶺南、海南島、雲南皆可なり。決してアッサム、スマトラ、ジャバを羨望する必要なし。地狭しと雖も我南洋群島もポナペ島、ナイプチ高地の如きは適地の一なり。温度と雨量多ければ生長は極めて迅速なり。我邦人は紅茶と云はゞ糖を加へざれば不可なるが如く信ぜり、笑ふべき事なり。緑茶より苦味少なきも猶糖と乳とを用ゆ。是れ我邦に紅茶の傳播せし盛時はアッサム種のリップトン系の茶なりしによる。加ふるに歐米崇拜の餘習を加へ歐米人の爲すが如くなさざるべから

ずと信ぜり。

支那人は決して是れを加へず。我邦人の緑茶を飲むが如く飲用せり。最近は乳の價貴きにより乳は是れを廢し糖のみを用ゆ。本年の如く砂糖不足せば恐くは無糖茶を用ゆるに至るべし。

「鐵觀音」の由來

臺灣及福建に於ける最良種たる鐵觀音の名とその由來を小記すべし。

福建安溪、廈門の北約八〇キロメートルに某姓あり。常に觀音大士を信奉し一夜夢みるに、自園の茶樹の中某樹に光明を見翌朝觀音大士を拜し昨夜の夢見せし地に至り之を探るに、異様の茶樹を發見し之を觀音大士の靈告なりとし培養し、その葉を採り製するに香味芳郁他の

茶の及ぶ所に非ず。その茶葉は普通の茶より肥厚にして堅固なり。故に大士の名を用ひ、その堅固の状鐵に類するにより鐵觀音と名く。不肖一昨年六月厦門アモイに遊び王姓の人現に鐵觀音茶園の所有者よりこの話を親しく聞けり。

この茶樹は優良なれども枝葉疎にして豊産ならず。故に大衆用となすべからず。貴品栽培となすべし。臺灣臺北州木柵は此の稱を用ゆ。平鎮試験所にも栽培せり。

大別するに北に従て綠茶を、南に従てアッサム紅茶を製するを順當とす。烏龍包種は臺灣、福建等の中間に屬す。夫れ明窓淨几めいさうじやうきの處午睡覺め來て之を飲む。盧仝ならざるも七碗にて之を禁ずる能はざるなり。

II Coffea, spp. 【珈琲】

珈琲は各種あり。皆 Coffea の屬に屬するもその種は一ならず。拙著臺灣島之現在 (二五三—二七八頁) に詳記せり。今再び之を記さず。就て之を讀むべし。

茶と共に人類の二大嗜好品

この飲料は茶と共に世界人類の最嗜好の二大商品なり。米人は特に甚し。我邦人は近時著しく之れが飲用を増加せり。而して茶の如く國産なきを以て輸入杜絶とつぜつは甚しく困難せり。幸ひ數年以前より臺灣にて栽培せしによりわづかにその用をなし價格暴騰はつとうせりと雖も早かん天てんに小杓せうしやくを以て灌水くわんすいするが如し。

米人は中米産を最良としブラジル、ジャバ、スマトラ産も優良品は此列に擧ぐ。ハワイのコナ種も優良品は一等級に加ふ。臺灣産はその系統明かならず。概ねハワイ種及ジャバ種なるが如しと雖も殆ど悪變し決して優良ならず。強て云はゞ無きに勝るといふに過ぎず。價格と品質とは正反對せり。幸ひ臺灣總督府嘉義農業試験支所は最近極めて珈琲に力を注ぎ殆ど世界各種を網羅し更に新種の創成に力む。然れども未だ事緒に就きしに過ぎず。借すに一二年を以てせずば良否を斷ずるに至らず。

栽培の適地

一般に氣候より云はゞ臺灣は珈琲の適地なりと云ふべし。茶の適する所概ね珈琲に適す。唯茶は強度の降雨に耐ゆるも珈琲は多少耐

雨性弱く特に過濕に對しては茶より遙かに下位にあり。耐旱性は茶よりやゝ強きが如し。ジャバ西部は多雨なり故に茶多く、東部は過乾なり故に珈琲多し。福建、嶺南、海南島、雲南等皆珈琲の適地なりと信ず。唯耐寒性は茶に比し弱し。故に雲南の二〇〇〇メートルの高原は或は不適當なるやも知れず。

微霜はアラビカ種は之に耐ゆるも強霜雪を欺くが如き寒天數日に列らならば葉は概ね枯死す。耐寒性やゝ強しと雖も臺灣高雄の如き晴天九旬に連る地に於いては被蔭樹を要す。嘉義の試験所にて被蔭樹の試験をなせしに無被蔭と強被蔭共に不可なり。弱被蔭最も可なり。嘉義も相當に冬期は長時間快晴を連續す。他日是れが栽培をなさんとする時は天候の雲量に注意せざるべからず。被蔭樹は一様ならざるも生長迅速なる荳科植物を用ゆ。是れ綠肥を兼ねるを以てな

施肥と摘果時期

是れが施肥は種々の説あるも不肖昨年九月ジャバに遊び某園に三〇年珈琲栽培をなせる蘭人にその施肥を問ひしに言下に果肉なりといへり。珈琲は核を用ゆるによりその果肉は皆是を放棄す。故にこれが果肉を堆肥とし他の雜艸等を加へ完全なる堆肥となし之を用ゆ。決して化學肥料を使用せずと云へり。

整樹は皆二メートル以下となし摘採の便と着花枝の多數を望む爲徒長せしめず。我邦人の珈琲園を見るにその樹皆長大なり。甚しきは林木に近きものあり。是れ整樹方法を誤れりと云ふべし。

次は摘果時期なり。その實の紅變し正にチヨコレート色に移らん

とするの期なり。此れを過ぐれば過熟す。此れに至らざれば不味なり。此事も亦我邦人の珈琲園に於て知らざる所にして青紅黃黑皆等しく摘採す。是れ臺灣珈琲の不味なる重大原因なり。

珈琲の輸出は不可能

猶本邦及支那に於ける珈琲の現栽培業者及將來栽培をなさんとする人に告ぐるは決して珈琲を日支兩國間以外に輸出品たらしめんとする希望をなすべからず。

世界の珈琲産額の九割はブラジルの産なり。ブラジルは實に珈琲の最適地にしてその野生せる原産地のアフリカよりも更に良好なり。故に年々の結實はその消費より遙かに凌駕し到底供給を消化する能はず。年々の生産過剰は現品を燒棄するに至れり。如此き形勢は珈

琲飲用人が更に六―七億を増加するに非ざれば供給不足を來すに至らず。故にブラジルの栽培區域は更に大擴張の餘地あり。他日印度支那の兩國民が全部珈琲を飲用するに至らざれば供給過多を救ふ能はず。故に輸出に對しては殆ど絶望と云ふべし。

加ふるに珈琲は茶と異なりアジア人種には未だ親しからず。印度は支那よりは恐く珈琲需要は増加すべしと雖も、回教徒を除き印度教徒の珈琲飲用は急速度ならざるべし。支那は緩徐くわんじょに増加すべしと雖も急激を望むべからず。故に日支兩國に於ては各その本國の關稅保護の範圍を出でざるべく今日の如く輸入禁止は決して將來に永續すべきものに非ず。

假りに關稅を付するも決して禁止的重稅を以てすべからざるは勿論にして、ブラジルを始め珈琲生産國に對し日本商品を輸入せんと欲

せば、勢ひ對策上關稅を極度に引上ぐべからず。然れば今日非常時局の爲の輸入禁止は到底將來に永續をなすものに非ざるは明かなり。支那は直接ブラジルとの貿易少なきに似たるも亦珈琲の需要も現在日本に如く大ならず。滿洲國すらマスタリカが承認をなすに當り珈琲の輸入を提議せし事あり。支那ブラジルの貿易も亦將來に増加すべきは勿論なれば、支那よりブラジルに輸入するものは何物なりや今日豫想すべからずと雖も、ブラジルより支那に輸入すべきは珈琲の外なし。

ブラジルは地大なれども未開區域多く、故に天然產物主として林產物の外多數ならず。従て輸出品としては珈琲を第一に置かざるべからず。故に關稅も極度に引上ぐべからず。又國內珈琲の生産に對する保護も自から程度ありと知らざるべからず。

如此き理由により日支兩國間の珈琲栽培は將來有望なりと雖も、現在價格を以て算を立つべからず。必ず世界市場約言せばブラジルの市價を以て採算し不當の収益を夢想すべからず。茶は東洋の特産にして支那を主とし日本之に次ぎ世界を支配し得べしと雖も、珈琲に對する考へは是れと別たざるべからず。

猶珈琲は絶對飲料なり決して工業品に非ず。故に飲料にして供給過剰ならば他に轉向せしむる能はざるなり。

アラビカ種を栽培せよ

次に日支兩國の珈琲を栽培せんとする業者に告ぐるは概ねアラビカ種を用ゆべきなり。

然れどもヘミレイア・ヴァスタトリックス (*Hemileia vastatrix*) 菌なり。

この菌にして葉に附着せんか殆ど救ふべからず。シロン島にては往年の大恐慌もこの菌の蔓延なり。殆ど珈琲は全滅せり。ジャバも大損害を蒙れり。アラビカ種はこの菌の抵抗極めて弱し。故にジャバ是を患ひ各種のアフリカ産を栽培し、最後にその強健と收量と香味の一致せるロブスタ種を基本種となすに至れり。

今日臺灣の珈琲園にも多少とも此菌の發生を見る。總督府は銳意是れが防止と驅除に力むと雖も將來の危険は依然たり。これが豫防は現在に於て方法なし。風により散布せらるゝを防ぐのみ。故に珈琲園は決して群居すべからず。必ず遮防林しやぼうりんの五〇〇メートル以上を隔たざるべからず。總督府にも不肖はこの恐るべきを進言し一面に發生せし園樹を燒棄すると共に遮防林を用ゆべきを以てせり。

ロブスタ種は此菌に對しては抵抗すと雖も寒氣の抵抗弱し。臺灣

に於ては結果良好ならず。嘉義の試験所すらアラビカ種に劣れり。其の状ジャバと正反對なり。蓋しアラビカ種の原産地は明確ならざるも紅海の南部バブエルマンデブ海峡の兩側なるを以て多少冬夏の別あるを以て是れに近き氣候を好むならんか。ロブスタ種はコンゴの原産なれば赤道直下にして絶対に平均せる氣候を欲せるならんと信ず。ジャバにてはロブスタ種は海拔九〇〇メートルを過ぎ一〇〇〇メートルに及ばんとせり。

然れば臺灣の溫度は決して不適當に非ざるもその氣溫の上下はアラビカ種に有利にロブスタ種に不利なるが如し。アラビカ種はジャバでは一〇〇〇メートルより以上を良好とす。ブラジルも亦サオパオロ州を最多とす。同じく氣候に寒溫の別ある地方なり。ブラジルもアラビカ種にして而も土地にてやゝ變種をなせり。何故にやへミ

レイア・ヴァスタトリックス菌の發生を聞かず。

海南島にはリベリカ、ロブスタ種を從來より栽培せりと云ふ。不肖は未だその實物を見ざる爲良否を斷ずべからずと雖も、全般にアラビカ種を以て栽培するを適當ならんと信ず。嶺南一帶及雲南の低地等皆然り。一樹の收量も甲地を以て乙地を律すべからず。ロブスタ種は收量多しと雖も臺灣に於ては著しくアラビカ種の下にあり。ジャバは之に反せり。

III Theobroma Cacao. 【カカオ】

茶、珈琲に次ぐ飲料はカカオなり。

此の植物は中南アメリカの原産なり。フアンホール(カカオ一五―二三頁)の云ふ所によればグアナ、ヴェネズエラ、アマゾン、オリノコオリノコの兩河の流

域はフォラステロ種及アメロナド種にして、中米コスタリカはクリオロ種なりと云へり。蓋し赤道直下の多雨帯の産なり。

この果實は特殊の香味を有するを以て一たび口にせば忘るべからず。茶のテキン、珈琲のカフェンと共にカカオのテオブロミンは類似のアルカロイドなり。このアルカロイドの爲に微弱なる興奮を起すを以てこの三種の飲料は人に快感を興ふ。

カカオはココア、チョコレート原料

我邦人はチョコレートを知らざるなしと雖もカカオを知る人極めて稀なり。大部分はチョコレートはカカオより作るものなる事すら知らざるもの多し。況やカカオの實物をや。

カカオの特徴は瓜の如き果實樹幹又は枝に直ちに垂下す。その形

は苦瓜に似たり。大いさは一様ならざるも二〇センチメートルを大なりとし一五センチメートルを普通とす。熟せる時は暗紫色となる。この果實中に三〇前後の核子を藏す。飲用に供するは此の核子なり。此れを取り適當の醱酵はちかを加へ乾燥し商品とし之を用ゆるに當り焙炙し粉碎磨散し更に熱して脂肪はちを除き粉末とす。これをココアと云ふ。チョコレートを造るはこの粉末に砂糖と乳と他の香料ヴァニラの如きものをを加へ泥狀となし凝固ぎょうこす。故にチョコレートの如き製品を見てその原形を知る能はず。珈琲すらその核子のまゝを見て是れを知らず。何の豆なりやと問ひし人すらあり。況やカカオの如きはその果實を示さば如何なる瓜なりや生食すべきや煮食すべきやと問ふは必然なり。之を欺き煮食すべしと云はゞ直ちに核子を去り是れを煮るべく、核子を示さば如何なる豆なりや菜豆の別種なりやと云ふべし。

その核子は殆ど菜豆 *Phaseolus Vulgaris*. か皇帝豆 *P. lunatis* に酷似せり。唯その色豆は白色にカカオは紅褐色なるのみの相異なり。

苦心して漸く目的を達す

不肖は昭和十一年一月南洋群島に遊び各島に此樹の栽培試験所に於てせられ良好なる發育をなせるを知り帝國領土に栽培可能なるを知り種子を臺灣に携へ來り是を屏東、臺東に移し栽培を試験せり。その前年即ち昭和十年嘉義試験所に於てカカオを見しも成績良好ならず。故に南洋産を移せり。爾來一日として此樹の繁殖に力めざるなし。

幸ひに屏東の試験所は不肖の携へ來りし種子より以前に輸入栽培せしもの漸次長大となり結實するに至り、臺東とも良好に發育し嘉義

も管理上從來の不適當なりしを發見し改良を加へたるにより三所とも好成績に轉換せり。

南洋群島は既に好適地なるを以て昭和十三年よりバラオ本島に於て南洋拓殖會社大栽培に移らんとす。而して森永、明治等の當業者も決意して臺灣主として臺東、高雄、南洋群島に大栽培を行ふに至れり。

不肖の苦心も漸く目的を達するに至り欣懷に堪へず。

現在南洋群島に存するものは過去西班牙占領時代の遺物にしてクリオロ種なり。この種子より繁殖せり。此の種子は直ちに發芽するを以てこれが移入には極めて困難なり。幸ひ郵船會社の好意を以て前後數回に涉り船舶の食品冷蔵庫を利用し臺灣に移入せり。然れどもその半數は依然不結果なりき。

兒童にしてこの果實を一たび喫せば忘る能はず。今小學兒童にチ

ヨコレートの好悪を問はゞ恐くは萬人中一人の是れを好まざるものありや疑なき能はず。不肖の如きは白頭猶此味を忘る能はず。況や兒童をや。

栽培

此樹の栽培は困難に非ざれども土地の撰定は極めて注意を要す。茶は極度の乾燥ならざれば可なり。珈琲は過乾過濕を避けば可なれども此樹は特に風を忌む。風強ければ樹勢衰弱し甚しきは枯死す。過乾も亦然り。過濕は明かならざれども四〇〇〇ミリメートルの降雨は何等の支障なし。恐くは茶と大同小異ならん。光線に對する被蔭は疎被蔭を可とす。此樹は珈琲に比するに遙かに繁茂するを以て自ら蔭を作る故にその幼時の保護と強烈光線の遮蔽のみなり。

品種はクリオロを本邦にて普通となせどもフォラステロ種の方最近は一般に歓迎せらる。この兩種の中に又小變種少なからず。今日までの經驗によれば適地は放置するも多産し不適地は全く結實せず。土地と氣候との適否に甚しく相違をなす事は茶珈琲より大なり。三者中茶は一般に鈍感なれども珈琲の中にカカオは極めて敏感なり。故にこれが栽培をなさんと欲せば土地の撰定に十分の探究をなさるべからず。但し氣候のみに依頼すべからず。

土壤は重粘沙地の兩端を除かば可なり。普通の壤土を可とす。排水の可良なるべきは勿論なり。寧ろ外界要素に左右せらるゝ事大なり。

栽培の適地

要するに茶は支那印度に跨り大面積の原産地を有し、珈琲はやゝ之に譲るも猶紅海より大西洋に及べるアフリカを横断せる區域に、而もその間相當の氣候の乾濕兩帶あり、山岳あり、變化少なからず。此の樹はオリノコ河を中心にして少許の左右に出づるに過ぎざれば原産地の狭少を以てするも、適地を求めざれば發育せざる理は分明なり。然れどもこれに近き地方を求めば決して原産地に譲らず

現在の適地とし栽培せらるゝはカリビアン海⁽¹²⁾の四周にして、西半球にして赤道より北緯二三度半の地なり。アフリカも大西洋岸にギニア沿岸⁽¹³⁾に最も多く、赤道の南北各一〇度なり。東洋は極めて少なく、蘭領印度とシーロンあるのみ。わずかにニューヘブリデス島⁽¹⁴⁾に産す。共に赤道の前後二〇度以内なり。

是を以て見るに氣候の晝夜の差一年の差の極めて少なきを條件と

す。即ち氣候^{かき}振幅^{かふん}の最少限を理想とす。是の點より云はゞ臺灣に於ては恒春郡を最良地となさざるべからず。而も週年降雨^{しゅうねん}の分布平均せるを可とす。同じく恒春郡を第一とす。

不肖曾て臺東に至りカカオ栽培地を巡視せしに北に進むに従ひその成績不良なり。僅々十數キロメートルに過ぎざるも亦然り。更に數十キロメートルを隔つれば全く相違せり。是れを以て見るにその氣候に對する敏感なるは疑ふべからず。臺東廳下に於ては恒春郡に近き阿朗衛^{アロウエイ}最も良好の成績を出せり。南洋群島は此の條件を具備せり。週年氣候は二七度にして、降雨も周年に分布せり。此樹の繁茂^{はんもち}するは必然なり。唯大風時に襲ふを以てその警戒を要す。然れども恒春に比せば遙に有利なり。

恒春は毎年夏時の大風は一兩回は必至なり。免るべからず。故に

谿間の防風區域を以てせざれば不可なり。加ふるに冬期北東信風の卓越せるを以てす。故に絶対に防風装置をなさざるべからず。然れども風は防ぐべきも氣温は如何ともすべからず。

故に先づ氣温の振幅少なき地を選び次に雨量の分布の平均に近きを求め最後に風に對する防禦を完備せば恐くは失敗なからん。支那に於ては海南島以外は困難ならん。海南島も南部のみなりと知るべし。

四 Cocos nucifera.

和名【ココヤシ】

臺灣名【椰 瓢】

この樹は人皆之を知る。この果樹も亦然り。元來この果實は油料

の下に記するを適當となすも之れが飲料たる事を知らざる人多きを以て今は是れを記せり。

この果實の殻中に清涼なる糖水を生ず。この糖水是成熟に従ひ減ず。核肉の脂肪を熟する時は少量となる故に核肉脂肪即ちコブラを採取する時は飲料となすべからず。故に人は是れを知らず。

飲用の適期

是れが飲料となす適期は果皮の緑なる時にして即ち未熟時なり。南洋各地に於て山野を歩し渴する時は是れにより渴を醫す。不肖は常に此を用ゆ。土人も亦之を飲用となせるを以て不肖の乞ふに従ひその最適のものを採り是れを進む。烈日の下なるを以て冷涼ならざるも甘度も適當にして渴を醫するに最も妙なり。

往時シンガポールに在りし時は庭前數株あり。毎日一箇を採り少量の酒石酸しゆせきさんを加へ之を飲む。早起之を用ゆ極めて爽快なり。現在ジャバ農園は一三〇〇メートルなるを以て此樹生育せず。ジャバにては此樹の限界は一〇〇〇メートルなり。此の上界を出でず故に用ひ難し。南洋群島にては到る所に極めて多きを以て數々之を用ゆ。屏東臺灣製糖本社には數百株あり。不肖の會社を訪ひ晝餐の饗きやうを受くるや必ず是れを出し飲用とす。不肖の好めるを知るを以てなり。常に深くその厚意を謝す。

この適採期は熟練せざれば困難なり。極めて未熟は不可なり。既熟に近くやコブラの有する特異の臭氣を加ふ。この臭氣にして水に加はらんか不快を免れず。故に此の臭氣の生ぜざる未熟中の適期を求めざるべからず。熟練せば困難ならざるも一般には之を傳へ難し。

キングヤシ

此樹の一種にキングヤシと云ふものあり。マツクミラン(熱帯植物及園藝 三三六頁)によるにシーロン、シンハリーズ語にてタムビリと云ひ特殊の種類にしてセイロンの特産なり。黄色にて楕圓だえんの實を結ぶ。特に甘味の汁液を以て著名なり。料理用となすべし。然れどもコブラ採取に適せず。

この樹は普通のココ椰子に比するに矮性わせいなり。一般庭園用としてはこの黄柑色くわうかんしよくの果實は極めて美麗びれいなり。而も矮性なるを以て採取に便なり。臺灣には此種を存せず。不肖は觀賞用として南洋群島より携へ來り屏東試験所に寄贈せり。南洋群島各試験所には之を有せりと云へども島民はコブラ本位なるを以て栽培せず。

飲料としてはキング椰子は遠く普通のココ椰子の上にある。

其の他の飲料植物

此の外籐類及バラム類に飲料に適するものなきに非ざるも、皆山野を跋渉し水に苦むの時醫渴の用をなすに過ぎず。

現にマダガスカル産の *Ravenala madagascariensis*. 【扇芭蕉】の如きは此の種の好標本なりと雖も清涼飲料として論ずべきものに非ず。

Piper meithysticum. 【シヤカオ】の如きも亦一種の飲料なり。金平氏の南洋群島植物誌(八一―八二頁)によると、本植物の根は刺戟性の苦味を有し一種の臭氣あり。太平洋諸島の土人はこの根を碎き、其搾汁を飲用する風あり。南洋群島にてはポナペ島のみ今なほその習慣を有す。シヤカオは少しく苦味を有しビールの如く泡立ち一種爽快なる風

味あり。飲用すれば麻痺作用を起し睡眠を催すと云へり。多少酸酔いっかつして酒類に近きを以て禁酒令下のポナペにては官廳許可の下に會長以下土民之を飲むを盛宴せいゑんとなせり。

不肖ポナペに在りし時支廳長は特に許可を下し會長以下にこの宴を張らしむ。不肖之に列し之を試むるに不肖の如き飲酒を好まざるものには爽快も不快も兩ながら無く全般的に是を好まず。故に可否を論ずべからずと雖も一種の地方的飲料に過ぎざるなり。

其他少許の飲料に適するものは熱帯植物中その類甚だ多きも今煩を恐れ之を記せず。

(此項終)

註

解

ここに難解字句人名地名等に關して註解を附しましたがこれは勿論著者の關せざる所でありますから豫め御了承下さい。

興亞計畫自序の註

- (1) 軒 輓 支那古代の帝王黃帝の名史記に出づ。
(2) 文質炳煥 外觀の美と實質とが光りかどやくこと。
(3) 氣序變和 氣候がやはらぎて程よきこと。
(4) 唐水、殷旱 唐代の水害、殷代の旱魃のこと。
(5) 漠 ゴビ沙漠を言ふ。
(6) 身毒安息 身毒は今の印度、太古印度阿利亞族が西方より移住した信度シンド、インダス河邊の國の意。インドは其の轉訛である。安息は西域にあつた安息國。即ちバルチア國のことである。エウフラテス、裏海、アラビヤ海の間にあつた。
(7) 李世民 唐高祖の二子、秦王に封ぜられ後即位して太宗と言ふ。
(8) 戒日王 印度ウドヤニー烏菴國の王、佛教を興隆し文學技藝を奨勵し、其の號令は殆ど全印度に及んだ。西紀七世紀頃、唐の盛んなるを聞き使を遣はして朝聘した。

(9) 翼 南 翼州の南方、翼は今の直隸、山西及江河以北、遼河以西の地を言ふ。

(10) 鐵木眞 元の太祖、成吉思汗のこと。

(11) 白 纛 白旗のこと。

(12) 朱元璋 始め濠洲安徽省鳳縣の僧、元の末葉に郭子興と共に兵を起し、江東の地を略し、都を金陵に定め國を吳と稱した。然るに當時元延内訌頻りであつたから、元璋は之に乗じて兵を進め、元の大都に迫り、順帝を追ひ、皇陵に即位して國を明と言つた。即ち明の太祖のことである。西紀一三六八年。

(13) 奴兒哈赤 Nurhachu 愛親覺羅氏の太祖、西紀一五八三年滿洲に起り、父祖の仇なる尼堪外蘭を滅ぼし、滿洲の諸都を統一し、蒙古を懷柔し、一六一六年自立して王となる。

(14) 弩末魯縞を穿つ能はず 弩は力強き石弓又は大弓。魯縞は魯の國曲阜あたりより産する薄く細き絹。即ち至つて強きものもその勢衰へては何事もなす事の出来ぬといふ意。

(15) 鼎 革 王者の易き革命をいふ。鼎は易封に於て新を取り、革は故を去るの義。

(16) 庶頑讒説 従はぬ人民が悪口をいふ。

(17) 烝 民 おほくの民、蒼生、黎民に同じ。

(18) 逋 逃 罪をのがれること、又其の人。

(19) 虎 賁 勇士のこと、賁は奔虎の如くは、しる義もと帝王を護衛した周代の官名。後世、悍猛なる軍隊の意に用ふ。

(20) 桓 桓 強く武勇あるさま。詩經に「桓桓王保有厥土」とある。

(21) 倒懸の苦 手足を縛つて倒に懸けられる非常な苦をいふ。孟子公孫丑上篇に「當今之時、萬乘之國行仁政、民之悅之猶解倒懸也」とある。

(22) 聖謨宏宏 天子の御はかりごとの宏大なること。

(23) 杜 塞 ふさぎとぢること。

(24) 畎 澮 田の間のみぞを言ふ。

(25) 伯 益 舜の時、虞に任ぜられて山澤の事を掌りて功あり、よりて舜之に嬴の姓を賜ふ、其の子孫は秦に住し、皇帝の位に即いた。

(26) 禹 鯀の子。堯舜の時大洪水あり、鯀是を治めて功なく、爲に誅せられ、禹父に代

りて道を通じ、川を決し、九州を劃し、貢賦の制を定め、終に舜に代りて政を攝し、舜の崩後、其の讓を受けて天子となり、夏后氏と稱した。

蒿よもぎ等のしげみ。いやしきことに喩ふ。

熱帯農業自序の註

(一) 秦

皇

秦の始皇帝のこと。秦王嬴政は六國を平げて天下を統一し、自らその徳は三皇を兼ね、その功は五帝に過ぎたりと稱して始皇帝と號した。これ所謂皇帝稱の始である。

(二) 六

合

東西南北、上、下のことより、世界、天下、宇宙等の意味をいふ。

(三) 五

嶺

五嶺山脈のこと。貴州南境の苗嶺山脈より東に延び、廣西、廣東兩省の北境、湖南、江西兩省の南境に横はる山脈で、中支那と南支那との境界を爲してゐる。五嶺といふ名稱は、江西、湖南より廣東、廣西に出る交通路に連る山岳中、著名の山峯として大庾、騎田、都廩、臨賀、越城の五嶺があるので、その名がある。就中大庾嶺の名は最も有名で、梅が多いところから梅嶺とも稱せられ、嶺の北を嶺北、南を嶺南と稱してゐる。

(四) 南海・桂林・象郡 今の廣東のこと。今の廣西省桂林のこと。今の南寧より佛領、印度支

那の東京及び安南の北部地方(河内を中心とした)に當る。

(5) 漢武又嶺南を討ちこの條は秦の始皇帝が六國を滅ぼして漢民族を統一し(西曆前二二一年)北方匈奴への備へを十分にし更に南進政策を樹立して五嶺の南方所謂百粵種族を征してその疆域を今の廣東廣西乃至は安南地方に迄も及ぼし郡縣の制に依つてその新征の地に南海桂林象郡の三郡を置いたことを述べたものである。

(6) 漢武 前漢の武帝のこと。

(7) 珠崖 漢の珠崖郡今の海南島の西南部崖縣に當る。

(8) 東漢建武 西曆二五年より西曆五五年に至る光武帝の治世である。

(9) 馬援 東漢の光武帝に仕へ諸方を征して功あり又伏波將軍を拜して交趾を征つ。時に建武十八年(西曆四二年)である。

(10) 交趾 大體に於て秦の象郡の地方に當る。

(11) 日南 今の佛領印度支那安南の順化を中心とした地方をいふ。

(12) 扶南 西紀第一世紀の初め後漢に朝貢してゐる。而して南北朝時代迄大體今の

(13) 番禺

禺

佛領印度支那の南端東埔塞地方に扶南國といふ名のもとに存在してゐた。今の廣東市のこと秦代に番禺縣を置き隋に改めて南海縣と稱したるも唐は又舊名を復し爾來此の名稱を用ふ。

(14) 司馬子長

漢の史家司馬遷のこと子長は字。河南龍門の生れ武帝の天漢四年に史記一百三十卷を編し終つたのは周知のことである。

(15) 珠璣犀瑇瑁果布之溱

史記貨殖列傳第六十九に出づ。

珠はまるき玉璣はまるくない玉の稱。犀は動物のさいのこと。瑇瑁は海に産する龜のこと。果は龍眼のこと。布は葛布のこと。

(16) 眞臘

臘

南北朝以降唐代より宋代に互つてしばしば支那に朝貢した國で、大體今の印度支那の南端もとの扶南の地に在りし國である。

(17) 珠江

江

一名を粵江といふ。江に東江と北江と西江との三江があり西江を本流として東北の兩江を合してゐる。西江の源は雲南にして廣西を通つて廣東に入り封川德慶高要の南を流れ三水縣にて北江と合し廣東市の南を通り黃埔虎門等を経て海に入り廣東の海運は珠江によつてゐる重要な河流。

(18) 河 洛 今の河南洛陽一帯の中原の地。

(19) 維 揚 今の江南の南京揚州一帯の地。

(20) 波 斯 三國晉南北朝隋唐初の頃今の波斯メソポタミヤアフガニスタン一帯の地を領有し、ローマ帝國と對峙せし大國である。

(21) 大 食 サラセン帝國にしてアラビヤ人の回教國なり。波斯の衰頽に乗じ第七世紀中頃斯波シリヤメソポタミヤ埃及等を含む大版圖を領有するに至る。

(22) 葱 嶺 世界の屋根といはれるパミール高原のこと。

(23) 北 戸 北に向つて窓を開く意即ち南國の謂で今の印度支那方面一帯北緯二十一度三十分以南をいふ。

(24) 玷 鷲 天に熱き毒氣ありて飛べども落ちて地にある鷲のこと。

(25) 占 城 今の佛領印度支那の南端地方にありし國名。隋以前の林邑にして唐初より占城と稱せられ宋代一時眞臘に滅ぼされたが後又獨立して清代に及ぶ。

(26) 閩 婆 瓜哇の本名。南北朝或は唐頃馬來半島地方の汎稱であつたが南宋以後東印度の瓜哇をいふに至つた。

(27) 賁 諸 孟賁專諸勇士の名なり。

(28) 天下熙々皆利の爲に來り、天下壤々皆利の爲に往く 史記貨殖列傳第六十九に出づ。熙々も壤々も共に多くの人が利益の爲にしげく往來するさまをいふ。

(29) 農出でざれば則ち其食に乏し、工出でざれば則ち其事に乏し、商出でざれば則ち三寶絶つ、

虞出でざれば則ち財匱少し、財匱少にして山澤辟かず 史記貨殖列傳第六十九に「周書且

として出づ。三寶とは中井積徳曰く。蓋し食と事と財とを三寶と爲すなりといへり。虞とは山澤守獵を掌る官の名。

熱帯農業(二)の註

- (1) 糖 蜜 別名モラツセス molasses 製糖の原料である砂糖含有汁液から種々の操作により砂糖を分離したものを一番糖蜜、此より二番糖を分離したものを二番糖蜜と云ふ。
- (2) ヘクタール hectare メートル法、土地或は水面の面積の單位、凡そ一町二十五歩にあたる。
- (3) 救荒食料 飢饉等の場合に食料の不足を補ふ爲に用ひる代用食。平素は食料として餘り用ひられぬものが多い。
- (4) 連作 年々同一圃場に同一作物を連続的に栽培すること、一般に作物は連作すると漸次生育が害せられ數量が減じ甚しい時は全く生育せぬ。
- (5) 膨 脹 膨はふくれる、脹はやはらか。脹はゼンとも讀む。
- (6) 輪作 作物連作の不利を除くため性質の全く異なる數種の作物を順次栽培、數年毎に循環する方法、地力の利用が完全となり病蟲害の驅除に效めがある。
- (7) 兩面作 同じ地を一年の中に兩面に利用するの意。
- (8) 肥 肥 肥えてやはらかなること。

- (9) 甄ア 別ズ 明らかに分ツこと。
- (10) ケデリー州 東部ジャバの一州。印度洋に面す。
- (11) 藕ゴウ 粉コ 蓮根からとる澱粉。
- (12) 雁 行コウ つしきならイこと。
- (13) クキンスランド Queensland. オーストラリア東部の一州。
- (14) エーカール acre 英町。ヤード、ポンド法の面積の単位。凡そ四段二十四歩にあたる。
- (15) ゴタワリ河 (Godavari R.) 印度中部デカン高原を西より東に流れ印度洋にそそぐ。
- (16) パイワン族 臺灣蕃族の一族。臺灣の極南部にして牽芒溪及び知本溪以南の地に住する。
- (17) タイチ島 太平洋中のポリネシアの諸島、佛領。
- (18) 輕鬆土 かるくあらき土。
- (19) モルカス群島 Malucca (Maluccaes) Is. 蘭領インド諸島中の一群島にしてニューギニー島の西北部にある。
- (20) 細コ 剉カ じかかくカこと。

(21) 荳 菽も菽も豆、即ち豆類の總稱。

(22) グルテン (Gluten) 菽 荳も菽も豆、即ち豆類の總稱。
 麸素のこと。グリアヂン及グルテニンなる二種の蛋白質の混合物。澱粉と共に穀類種子の主成分をなす。灰褐色の弾力性ある粘稠なる塊、小麥粉の澱粉を水洗し去つた後に得られる。味の素の原料グルタミン酸は小麥の麸素を加水分解して得られる。

(23) 大聖世尊 釋尊のこと。

(24) 六朝 支那に於て吳(三國の)東晉、宋、齊、梁、陳の六王朝(222-588)の時代。

(25) 糖と 蔗 糖は甘蔗より精製せるもの糖を取る植物を言ふ。

(26) 甜菜 Sugarbeet. 藜科アの草本、根は多量の糖分を蓄積してゐるので砂糖の原料となる又莖、葉は肥料、家畜の飼料となる。俗に砂糖大根と言ふ。

(27) 嶺南 五嶺の南、現代の粵中を言ふ。

(28) 多胚形 一つの種子の中に二つ以上の胚を生ずる形をいふ。

(29) プレアンガル州 地名。西部ジャバ Preanger Regentschappen. 現在は行政區劃を改め Priangan となす。

- (30) 矮性種 丈のひくい種類。
- (31) 宮 闕 宮城に同じ。
- (32) 傳 驛 宿場から宿場へ次第におくりとどけること。
- (33) 閩 粵 福建省の故稱。
- (34) ラテライト (英語) Laterite. 紅土、鐵礬土。
- (35) 取り木、壓條 (英語) Layering と言ふ。草木の枝葉又は新梢を壓返して曲げ、地中に埋没して發根させ苗木をとる方法である。實に、挿木、接木等によつては繁殖困難なるものに行ふ。
- (36) 小顆 顆はつぶの意。即ち玉が小さい意。
- (37) ライスタフル (オランダ語) Rijstafel. 元來の意味は米料理の意であるが、飯の上に種々のものを取合せて食べる蘭領印度料理を言ふ。
- (38) マスターピース (英語) Masterpiece 傑作の意。
- (39) ジヤメイカ 地名、Jamaica. I. カリブ海中の一島、キューバ島の南にあり。

- (40) ゲワテマラ 地名、Guatemala. 中米、メキシコの南の小國。
- (41) 螺 髮 佛像の頭髮で、螺のからの如くちぢれうづまいた髪を言ふ。
- (42) 紅頭嶼 地名、臺灣の南東、フィリピンと臺灣との間の一島、日本領。
- (43) スパイス群島 地名。Spice Islands 香料群島の意、モルツカ諸島の別名。
- (44) 燕石を貴んで趙璧を捨つるの愚 燕石とは燕山から出る玉に似て玉にあらざる石のことで宋の愚人が眞の玉と信じ大寶となして世の物笑ひとなつた故事がある。趙璧とは藺相如が璧を奉じて趙に歸つた故事もあるが極めて貴い玉をいふ。即ち取るに足らぬものを大事にし、貴いものを捨てる愚を言ふ。
- (45) ラッセル・ウォーレス 人名、Alfred Russel Wallace 1823-1913. 英國の博物學者。一八五二年マレー諸島の探検に従事し、滞在八年動物植物の研究に従事した。氏はバリ島とロンボック島との間に濠洲性動物植物とアジアのそれとの境介線ある事を指摘した。
- (46) 周文王 人名。名は昌。周室の祖たる傳説上の人物で賢明にして仁政を施し、孔子より理想的人物とされ其の人物政治は儒家の模範とされる。其の太子武王立ちて紂を滅ぼし

周が天下を治めるや文王と諡せられた。ここでは文王が苜蓿の俎を好んだと言ふ故事。俎はまないた。料理。

(47) ベーリス基、鹽基のこと、化學用語、醫學では主藥の意。

(48) ブチル酸 Butyric acid. 酪酸。

(49) イヌリン 澱粉に似た一種の含水炭素、菊科植物桔梗科植物の根の細胞液内に溶存す。

(50) 花托 花柄の先端のふくれたる所を言ふ。

(51) 馴致性 適應性。

(52) マレイシヤ、ポリネシヤ、マレイシヤは大體東印度諸島にあたる。文化を單位とする稱呼。ポリネシヤはハワイよりニュージールランドに互る太平洋諸島を言ふ。

(53) 醃藏 しほづけ、つけものにする事。

(54) 謝花 花の散ること。

(55) 纏繞 まとひめぐる、からむの意。

(56) 隠花 顯花に對す。雌雄兩藥を有する花なく唯孢子で蕃殖するもの。

(57) ギアナ 地名。Guiana. 南米、ブラジルの北、英領、蘭領、佛領あり。

(58) アンダマン群島 地名。Andaman Islands. マレー半島の西、ベルガル灣中の島。

(59) 蓊鬱 草木のさかんに茂れる事。

(60) 茨 みのみか、まにばす。

(61) 明窓淨几 あかるい窓ときよい机、立派な書齋をいふ。

(62) カリビアン海 地名。Caribbean Sea. 南米、中米、キューバ等にとりかこまれる海。

(63) ギニア海岸 地名。Guinea. アフリカ、大西洋岸、象牙海岸、黄金海岸、奴隸海岸に互る一帯。

(64) ニューヘブリデス島 地名。New Hebrides. オーストラリアの北東、太平洋中にある島。英、佛領。

(65) シンハリーズ語 Singhalese language. セイロン島南部に行はれインド、ヨーロッパ語系の言語、土民の七割が之を用ひる。略パーリ語に近いが多數の外來語を含むといふ。

(66) 黄柑色 黄柑はかうじみかんをいふ。

(67) マダガスカル 地名。アフリカの東、印度洋中の大島。モザンビク海峡をへだてて葡領東アフリカに對す。佛領。



印 檢 者 著

大谷光瑞興亞計畫與附

昭和十五年六月五日印刷

昭和十五年六月十日發行

定價金壹圓參拾錢

著者 大谷光瑞

京都市伏見區桃山三夜莊

發行者 村田鐵三郎

東京市麴町區丸ノ内三ノ八

印刷者 龜谷良一

東京市本郷區眞砂町三六

大阪市東區本町四丁目津村別院內

大 乘 社

東京市麴町區丸ノ内三ノ八

有 光 社

電話丸ノ内三〇二〇番
振替東京六六一五番

行印社會式株刷印東日

大谷光瑞先生著

台灣島之現在

菊判背革天金函入八百餘頁
寫真及着色附圖百餘頁
超豪華版定價金拾圓

送料 内地 二四錢
植民地 四七錢

南進政策喫緊の好著！ 本書は與亞計畫中『熱帶農業』と姉妹篇をなし、著者の主唱する我國南進政策の遂行上、朝野の認識を一新せんとするものである。

内容目次の一部	
臺灣の農作物	果實 澱粉
植物 染料食物	タンニン
織維植物	香料 植物 工
業用植物	その他
臺灣の林業	樟腦 樹脂 其他
臺灣の畜産	水牛 豚 羊 其他
臺灣の漁業	マイソル 其他
臺灣の鑛業	石油 金 銅
其他	以上の外工業、交通、觀光、氣象等一切を網羅す。

胸中一點の私利私慾の念なく、あるは唯鬱勃たる憂國赤誠の一念から、護國救済の大願を筆管に迸らせて熱帯産業の實相を説き、南進政策の必要を痛論す。曩に臺灣全土の山野を跋渉するや、該博なる知識と周到なる考證を以て、臺灣全土のあらゆる産物の詳細なる調査を終へた著者は、小なりと雖も臺灣は日本に於ける唯一の熱帯産業地だ。その全產物は及ぼす影る滿洲國のそれに匹敵し、此地を活用すると否とは、非ずして事實が證明する。これ決して余の豪語に外雄飛を志す人々南進政策を志す為政者の絶好なる參考資料たるのみでなく、諸官衙、學校、會社、商店等にも必ず一冊を備へる産業開發の資に供せられむことを乞ふ。

大谷光瑞先生著

定價金壹圓

送料 市内 六錢
内地 十二錢

支那の將來と我帝國の使命

四六判 三百五十頁
本文五號新活字組
紙質特漉ラフ
表紙オフセット美本

現下時局の最高指導書として、爲政者知識階級を驚歎せしめた問題の快著！
敢て一億同胞の一讀を薦む！

過去十數年來絶えず對支強硬外交を稱へ來つた大谷光瑞先生は、日支事變の勃發するや、直ちにその蘊蓄を傾けて我が日本帝國の進むべき道を明かにすべく、萬腔の赤誠をこめて本書を公にされた。支那に居住し、支那そのものを研究すること幾十年、而もその炯眼は支那全土の表裏に徹し、ここに群小凡百の徒を壓して堂々たる所見を披瀝された。今や本書は當時大官を注目せしめ、全國民に難局打開の道を説く最高の指導書として嘖々たる好評を博しつつあり。而も時局益々重大、與亞の新政權の確立を見るの秋、本書の眞價まことに燦然たるものあらん。

大谷光瑞全集

全十三卷 定價各册金壹圓八拾錢

内地十六錢 送料市内六錢

淨土三部經

大無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經、淨土真宗の根本聖典に對して、懇切明快に噴

三經篇

本篇收録の妙法蓮華經講話は、學徒としての驚歎せしめ、獨得の名調

般若涅槃經

熱烈なる學究的良心を以て、悉く梵語の原典にして眞偽をた

現世未來利益篇

無量光安樂莊嚴經は、これ即ち佛陀が西方安樂國土の全貌を

信樂篇

若き日の貌下が一世の蘊蓄を傾け、不退轉の覺悟を示して執

教義篇

從來諸説紛々たる「王舍城所説無量壽經」及び「舍衛國所説

大谷光瑞全集

孫子新註 附無題錄

支那古代の名著「孫子」に對して、獨自の新解釋を下せ

食・花・支那古陶瓷

多角型的なる才能に、多方面なる趣味、而もその飽迄科學的

漫筆篇

力下の足跡は洋の東西に互り、軒昂たる霸氣と俊敏なる洞察

支那問題

看よ！既に十數年前に日支衝突の避くべからざる所以を豫

大經義疏

大無量壽經義疏は、觀下、數多き著作の中、最も意義深きも

隨筆集

折にふれ、機に乗じ、悠々自適の中に、眼博識を筆に託す。

淨土論註

「淨土論註」は、曇鸞大師が往生論を詳解されたるものにて、

大谷家藏版

新西域記

世界學界の翹望を擔ひ

初めて空前の名著出版さる

それ西域は遠く佛教興隆し、三寶流通せるの故地、特に新疆の地たるや、印度と支那の通路に當り、兩大陸文化の接觸せし處にして、同時に又佛教東漸の一大衝衢たり。嘗に佛教隆興の地たる點に於てのみならず、其歴史の竝に地理的關係に於て、我邦は彼地とは特殊密接の關係にあり。

前西本願寺法主大谷光瑞師は深く此點に留意し或は人を派し、或は親しく此の地方を踏査するこ

と前後併せて三回、之を彼の泰西諸探檢家の所得に比すれば其質と量に於て遙かに彼等を凌駕し、その踏査區域の廣大なること到底、法顯、玄奘等の企て及ばざるものあり。又之が探査に投ぜし費用の莫大なる、その探査發掘の精密周到なる、實に是れ世界的巨人たる大谷光瑞師にしてのみ爲し得る一大業績と云はざるべからず。

而も未だ此の世界的大探檢大調査の全收穫の上梓せられ居らざりしを遺憾とし、茲に大谷家竝に本願寺當局の協賛を得て細心慎重に計畫を樹て、最善を竭して苦心編纂すること實に年餘、今日遂に發刊を見るに至る。これ獨り佛教界の爲のみならず、實に考古學、東洋工藝美術、地理學、人類學上に裨益する所至大なりと信するものなり。敢て一大方諸賢の清鑑を乞ひ奉る。

内容の一部

蒙古新疆旅行記	野村榮三郎
支那紀行	吉川小一郎
新疆通信抄	橘瑞超
中亞探檢	羽田亨
本願寺の發掘物	内藤湖南
タシユタルガン通信	渡邊哲信
ギルギット通信	本多惠隆
印度紀行	上原芳太郎
西藏入國記	青木文教
尼波羅通信	島地大等
孟買通信	藤井宣正
ビルマより雲南へ	前田徳水

裝幀

四六倍判總頁一千四百頁
寫真挿入六百餘葉
原色及コロタイプ百五十葉
表紙特製羊皮金文字及
金模様三方マーブル函入

定價

上 金壹百五拾圓也
下

印刷

永遠不滅の此の大著述を後世に傳へんが爲に、斯界の權威大日本印刷株式會社に囑して新五號活字全部を新鑄して最良インクを用ひたり。

製本

明治・大正・昭和を通じての大豪華版たらしむべく優秀なる製本工を配し、長時日を要して一冊一冊を入念に製本せる完璧品。

大谷光瑞興亞計畫

卷十全

各册 定價壹圓參拾錢
 送料 市内六錢
 約四六判 内地九錢
 紙裝美本 約二百餘頁

著者にして始めて成し得る大業績
 興亞の黎明本書より出づ！

第一卷	第二卷
第一篇 支那の將來に於ける施設	第六篇 海南島開發計畫
第二篇 支那政治の要諦	第七篇 嶺南の水利
第三篇 支那新首都と海港	第八篇 廣東及珠江三角洲の水利
第四篇 錢塘江の水利	
第五篇 淮河の水利	

第一卷	第二卷	第三卷	第四卷
第一篇 支那の將來に於ける施設	第六篇 海南島開發計畫	第九篇 揚子江の水利	第十一篇 各省の水利
第二篇 支那政治の要諦	第七篇 嶺南の水利		第十二篇 河江の航運
第三篇 支那新首都と海港	第八篇 廣東及珠江三角洲の水利		第十三篇 歐亞連絡鐵道計畫
第四篇 錢塘江の水利			
第五篇 淮河の水利			

第六篇 海南島開發計畫 (一) 政體及首都 (二) 海
 港 (三) 交通 (四) 産業 (五) 開發の順序 (六) 結論 第七
 篇 嶺南の水利 (一) 西江 (二) 北江 (三) 東江 (四) 韓江 (五) 其他の諸水 (六) 結論 第八篇 廣東
 及珠江三角洲の水利 (一) 西江 (二) 北江 (三) 東江 (四) 韓江 (五) 其他の諸水 (六) 結論 第九篇 揚子江の水利 (一) 揚子江の水利 (二) 揚子江の航運 (三) 揚子江の開發 (四) 揚子江の結論 第十篇 黃河の水利 (一) 黃河の水利 (二) 黃河の航運 (三) 黃河の開發 (四) 黃河の結論 第十一篇 各省の水利 (一) 各省の水利 (二) 各省の航運 (三) 各省の開發 (四) 各省の結論 第十二篇 河江の航運 (一) 河江の航運 (二) 河江の開發 (三) 河江の結論 第十三篇 歐亞連絡鐵道計畫 (一) 歐亞連絡鐵道計畫 (二) 歐亞連絡鐵道計畫の結論

卷十第	卷九第	卷八第	卷七第	卷六第	卷五第
支那の物産	熱帯農業【四】	熱帯農業【三】	熱帯農業【二】	第十五篇 熱帯農業【一】	第十四篇 近海航運港灣計畫
(同) 九月刊行	(同) 八月刊行	(昭和十五年七月刊行)	<p>熱帯農業【二】澱粉、糖類(甘藷、イモノキ、クズウコン、タシロイモ、キクイモ、クワキ、クロクワキ、サダウヤシ)生果(マンゴウ、柑橘、ミバセウ、レウリバセウ、荔枝、パパイヤ、ゴウシンプル、メロン、チエリモヤ、トゲバンレイシ、ギウシンリ、バナレイシ、マンゴスチン、ヅリアン、サボテラ、アボカド、パンノキ、波羅蜜、柿、クダモノトケイサウ、オホミトケイサウ、バナジラウ、龍眼、蕃龍眼、タマリンド、フトモモ、五斂子、カリッサ、カンテンイタビ、ブラジルナツ、胡桃、栗)飲料(茶、珈琲、カカオ、ユウヤシ)</p>	<p>第十五篇熱帯農業【一】第一章總論農は國の本なり熱帯は農業の適地「物資不足の眞因」食料確保は熱帯農業に依て完し。第二章氣候熱帯と氣候「東アジアの氣候概論」特殊地形による氣候「降雨熱帯と避暑」第三章土壤概論「熱帯と土壤」熱帯農業の奥義「肥料熱帯土壤の第一義は光熱水の利用保持」第四章農作物「穀類、糖類、油類」附表</p>	<p>第十四篇 近海航運港灣計畫 一、海運、内國外國の別二、内國航路、地理的基點、客船航路、内國貨船航路三、外國航路、航路四、客船航路、内國常備商船は高速ならざるべからず特殊商船隊の船型十年の短計五、港灣、大港集中主義「船舶の港上海港、高雄港、北主南從主義を駁す」</p>
刊續	刊續	刊續	刊	新	刊 既

GANNANDO-SHOTEN
KANDA TOKYO
店書堂南巖

七

6

